

私が医療事故研究会に入会したのは、今から約30年位前です。当時、森谷先生は、医療事故研究会の中心的存在として活動されていました。

私が入会した頃、医師を招いての研修がありました。研修の後に懇親会が開かれ、出席者各々が簡単なスピーチをやることになりました。私の番になり、「森谷先生に、講師の先生が『何々と』言っていましたが、あれはどういう意味ですかと聞きましたら、『君、馬鹿だね、あれは、こういう意味だよ』と優しく教えて頂きました」とスピーチして、そこそこ笑いを取りました。スピーチを終えて着席しましたら、隣に座っていた森谷先生が、「そんなこと、言っていないよ」とぼやいていらっしゃいました。

医療事故研究会では、月に1回、研修を行っています。会員が経験した医療事故事案を報告する形で行われることが多いです。森谷先生は、毎回、研修会に出席されていました。そして、日頃の温厚な森谷先生を知る者にとっては、意外な程、厳しい質問が、報告者に対してなされていたのが記憶に残っています。これも、医療過誤に対する森谷先生の厳しい想いの現れと思われます。

弁護士になって初めて、弁護士同志は、お互いを先生と敬称をつけて呼び合うということを知りました。ある弁護士同志の飲み会で、臨席の弁護士に「弁護士もお互いサン付で呼び合う方が自然でいいですよね」と言いましたら、その弁護士から「しかし、名前を忘れたときに便利ですね」と言われ、「なるほど」と思ったことがあります。森谷先生の場合は、森谷さんではなく、森谷先生と呼ぶのが自然でした。

森谷先生のご冥福を祈ります。

医療事故研究会会員 伊 藤 皓